



## 第8回 気持ちを和らげる関係づくり (2)

### ～言葉を繰り返す～

認知症の方は記憶障害や見当識障害があるため、現実との“ずれ”が起こりやすく、不安や焦り、怒りなどを訴えることがあります。

介護者はこの“ずれ”が起こらないように、認知症の方にとってのヒエラルキー（誇りある高齢者としての立ち位置）が逆転しないように、丁寧な言葉遣いや態度で接し、役割のある心地よい生活を提供しています。

それでも、認知症の方はさまざまな訴えをします。例えば次のような帰宅欲求の場面です。

**Aさん「電話を貸してください！迎えに来てもらうんです！」**

介護者「で・ん・わをかけたいんですね  
…「どちらにかけますか？」

**Aさん「兄にかけます」**

介護者「お・に・い・さ・ん  
にかけますね」



このように、介護者は相手の言葉を繰り返し、かつその方のトーンやペースに合わせ、確認するように返すことが大切です。同じ言葉を繰り返されると、認知症の方は自分の意思が通じている、と知覚として実感し、確認するように返されると強調されて、より伝わったと実感します。

そうすることで、「受けとめてくれた」「思いが伝わった」と認識し、事が解決しないでも次第に穏やかになってきます。

また、気を付けなくてはいけないことは、**その場で対処すること**です。ご本人にとっては一大事なのですから。

そして、落ち着いてきたらお兄さんのことや「どんな兄妹だったんですか？」などと懐かしい話題に誘い、ゆったりと気分転換を図ることができれば、すんなりと普段の生活に戻ることができます。



「相手の言葉を繰り返す」ことは、そんなに難しいことではありません。しかし、時には次のようなシリアスな場面に出会うこともあります。

**Bさん「（泣きながら）・・・もう死んでしまいたい」**

介護者「死にたいほど、お辛いんですね」  
「私にできることがあったら、何でも言って下さい」

Bさんの辛い状況に置かれていることを推察し、親身に共感し、さらに「できることがあれば何でも言って下さい」と付け加えることで、「この人は、私のつらい気持ちを解ってくれた」と落ち着かれることでしょう。

ご立腹されている場合も同じです。怒りの気持ちに共感し、深刻な面持ちで言葉を返します。

**Cさん「こんなところには、二度と来ませんから！」**



介護者「来たくなくなるのも当然ですよ。私もそう思いますよ」

このように、言葉の裏に隠された感情や意味を感じ取り、言葉を返すことが大切です。

普段行っている、いつもの介護を少しだけ見直すこと、意識することで認知症の介護は大きく変わっていきます。